

①課題名：トビイロウンカの新しい防除体系と情報伝達体制整備による防除対策の確立

実施期間	令和3年
担当者等	各農林(水産)事務所、病虫害防除所、農業振興課、就農・技術支援室
目標項目	

1 課題の背景

水稻では2年連続でトビイロウンカによる被害が多発し、特に2年産では作況が戦後最低の「73」に低下する大きな要因となった。

このため、関係者が連携して、トビイロウンカの飛来・発生状況、防除の状況や薬剤の効果等について解析を行い、有効な薬剤の選定や多発時の防除対策の確立に取り組んでいるところである。

2 目的及び目標

トビイロウンカの被害を最小限に抑えるため、関係機関と連携して下記の取組を行う。

- ① 新たな防除薬剤や防除体系の実施を徹底し、効果の確認・評価を行う。
- ② トビイロウンカに関する技術情報を適切かつ迅速に生産者と共有するため、SNS等を活用した情報伝達体制を整備する。

3 活動内容（役割分担）

- ① 新たな防除体系の実施の徹底、対策の効果確認
 - ・ 関係機関との連絡調整 【農業振興課】
 - ・ トビイロウンカの飛来・発生状況の調査 【農業部、防除所】
 - ・ 飛来・発生状況のとりまとめ、新たな薬剤・防除体系の効果の検証 【防除所、就農・技術支援室】
- ② 情報伝達体制の整備
 - ・ 関係機関と連携した情報伝達体制の整備・運用支援 【農業部】
 - ・ 他県等の情報収集、防除方針の検討・決定、防除対策資料等の作成・発信 【農業振興課、防除所、就農・技術支援室】
 - ・ 現地技術指導 【農業部】

4 スケジュール

時期	活動内容
4月	・ 普通作班長会議（取組内容及び役割分担の周知）
4月～9月	・ 情報伝達体制の整備、運用
6月上中旬	・ トビイロウンカの防除に関する研修
6月～9月	・ トビイロウンカの飛来・発生状況の調査、とりまとめ ・ 防除方針の検討・決定、防除対策資料等の作成・発信 ・ 現地技術指導 ・ 新たな薬剤・防除体系の効果確認
11月	・ 普通作班長会議（取組状況の検証、次年度に向けた改善点協議）

5 結果

①新たな防除体系の実施の徹底、対策の効果確認

(1) 関係機関との連絡調整

時期	活動内容	参集範囲
4月15日	第1回担当者会議(年間活動計画等の協議)	県関係者
5月10日	第2回担当者会議(県域研修会、発信方法等)	県関係者
5月17日	ネットトラップ調査開始	
5月18日	普通作班長会議 (取組内容及び役割分担の周知)	県関係者
5月31日	トビイロウンカ防除対策研修会を実施 (防除体系、SNS活用、ウンカの生態等)	JA・県関係者 約50名
6月11日	現地巡回(すくいとり調査開始)のPR	
7月30日	第3回担当者会議(発生状況と今後の対応)	県関係者
11月17日	防除薬剤の注文・在庫管理にかかるJAとの情報交換	JA・県関係者

(2) トビイロウンカの飛来・発生状況の調査

水稻定点調査時に発生状況を調査(6/11～)

調査日	調査地点数	方法	結果
6月11日	37地点	すくい取り	未確認
6月21日	67地点	すくい取り	未確認(ヒメトビウンカ極微)
6月30日	75地点	すくい取り	未確認(セジロウンカ極微)
7月12日	84地点	すくい取り	未確認(セジロウンカ極微)
7月21日	83地点	払落し (一部すくい取り)	未確認(セジロウンカ極微)
8月2日	60地点	払落し	未確認
8月11日	42地点	払落し	未確認

(3) 新たな薬剤・防除体系の効果の検証

令和3年度新農業資材確認ほ実証試験において、ウンカ類に対する新規防除剤の効果試験を実施。

新資材	実施機関	判定
稲箱名人/スタウト アレス箱粒剤	美祢・山口	少発生条件であったが、対照薬剤と同等の効果あり。
オーケストラフロア ブル	山口・長門	セジロウンカに対しては十分な殺虫効果あり。 トビイロウンカ、ヒメトビウンカについては発生量が少ない、または無く、判定不能。

エミリアフロアブル	美祢	セジロウンカ、ヒメトビウンカは極少発生で、トビイロウンカは飛来なしのため判定不能。
ドライバー（展着剤）	山口	セジロウンカにおいては、無添加と同等もしくは降雨後の防除価はやや高い。ウンカ類の発生が無～極少だったため、展着剤加用による明確な防除効果の向上については確認できず。

② 情報伝達体制の整備

(1) 関係機関と連携した情報伝達体制の整備・運用支援

- ・LINEを活用した病害虫発生情報の配信

○LINEグループの登録数：2,506人（R3.5末）

活用事例

- ☆ R3.7.30 いもち病の注意喚起
- ☆ R3.8.3 斑点米カメムシ類の注意報

- ・ホームセンター等の農薬販売店への病害虫発生情報の店舗内掲示

○店舗内掲示に協力する店舗数：計193店舗

ホームセンター 80店舗、JA営農センター 36店舗

山口県農薬商業組合 20店舗、山口県農業企画商工業組合 57店舗



(2) 防除対策資料等の作成・発信（水稻関連）

時期	機関	内容
7月16日	防除所	イネのイネカメムシの発生状況と防除対策（技術資料第3号）
8月3日	防除所	水稻の斑点米カメムシ類（注意報第1号）
8月3日	防除所	農作物病害虫発生予察技術資料第4号「イネいもち病の発生状況と防除対策」
8月3日	防除所	農作物病害虫発生予察注意報第1号 水稻の斑点米カメムシ類（イネカメムシ、アカスジカスミカメ等）

8月20日	就技室	いもち病の防除の徹底について
8月27日	防除所	農作物病害虫発生予察技術資料第5号 穂いもちの防除を徹底について

6 今後の対応

- ・ 県定点調査ほ場（県下15ほ場）でのすくい取り及び払落し調査を継続

品種	調査地点			
コシヒカリ	周南市鹿野	山口市阿東嘉年	萩市吉部	阿武町福賀
ひとめぼれ	長門市三隅上	下関市豊浦町下小野	岩国市周東町祖生	
きぬむすめ	美祢市美東町大田	下関市豊浦町下小野	柳井市神代	
ヒノヒカリ	田布施町大波野	光市小周防	山陽小野田市厚狭	防府市大道
恋の予感	山口市名田島			

※一部変更の可能性あり（県北部ほ場への変更、植付時期による変更等）

- ・ トビイロウンカの早期飛来や多飛来が確認された場合には、農業振興課・防除所と協議の上、調査地点の拡大を行い、飛来状況及び増殖の状況の確認を行う。